

次期がん対策推進計画（骨子案）に係る第2回協議会での意見等について

分野	意見の要旨
がん予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>○B型肝炎ワクチンは、子宮頸がんワクチンと同じように、効力があるものなら、是非積極的に進めていくべきではないか</li> <li>○受動喫煙防止条例の設置検討（追加意見）</li> <li>○小学生から継続的な喫煙防止教育を実施（追加意見）</li> <li>○ピロリ除菌への啓発や検診項目追加の指導（追加意見）</li> <li>○食生活改善・運動への啓発告知（追加意見）</li> <li>○子宮頸がんワクチン補助金制度を全市町村へ整備（追加意見）</li> </ul>
がん予防・がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子宮頸がんワクチンの接種に併せて、検診も受けてもらうようにすべき</li> <li>○市町に求める取組があれば、計画の中で具体的に表現してほしい</li> </ul>
がん検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職域の検診において、がん検診の重点化や最低限実施すべき項目を示してはどうか</li> <li>○市町の住民参加の保健活動でずっと参加されているような方を、受診勧奨に引き込むような形を市町で取り組むのはどうか</li> <li>○患者経験者や現在でも療養している患者団体など、経験者ががん検診推進員のところに参加して、自分の経験を通して伝えるようなことがいいのではないか</li> <li>○土日や18時以降に受診できる検診機関が増えたらいいと思う</li> <li>○市町には、検診と精密検査の結果を正確に、しっかり集めてもらう必要がある</li> <li>○検診にかかわる医療従事者の質と数の向上（追加意見）</li> <li>○がん検診推進委員の具体的活動の提示（追加意見）</li> <li>○10代の頃から子宮頸がんの予防・検診に関する知識をもつような教育の強化（追加意見）</li> <li>○CT検診を考慮に入れるべき（特に肺がん）（追加意見）</li> </ul>
がん医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小児がんの拠点病院が他県にできたとしても、地域に帰ってからのフォローのために県内にも拠点が必要である</li> <li>○小児がんは、2次がんへの対応も含めて、長期にフォローする体制を作る必要がある</li> <li>○患者が自分のがんを自分で理解して、自分が受けたい医療を医師に伝えるための取組を取り込んでほしい</li> <li>○地域間医療格差を解消すべき（追加意見）</li> <li>○拠点病院周辺の宿泊費助成など通院不能な患者や家族のための体制整備（追加意見）</li> <li>○自宅地域内での医療や介護を可能にする体制整備（追加意見）</li> <li>○稀少がんや標準外治療などのため、県外の治療を望む患者に対する支援体制整備（追加意見）</li> <li>○手術、放射線、化学療法、副作用・合併症対策の充実とチーム医療の推進、そのための人員確保と質の向上（追加意見）</li> <li>○抗がん剤治療が高額なため、特定医療費と同様な措置を取れるようにする（追加意見）</li> <li>○小児がんなど国内集約化拠点病院の広島県への誘致と質の向上（追加意見）</li> </ul>
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がんサポートドクターも緩和ケアに取り組むようにしてほしい</li> <li>○痛みなどは個々で違うので、クリティカルパスのような一律の連携は適していないのではないか</li> <li>○診断がついたときに、急性期と緩和の医師が連携を取るような仕組みを作ってほしい</li> <li>○体だけでなく「心のケア」の認識が必要（追加意見）</li> <li>○終末期医療病棟・チーム・外来の医療従事者の育成と整備と確保（追加意見）</li> <li>○在宅で終末期医療を受けられる体制の整備と支援、関係団体との連携強化（追加意見）</li> <li>○緩和ケアの認定看護師が本来業務をできるよう、適正配置が必要である（追加意見）</li> </ul>

※（追加意見）は協議会後に委員から提出されたもの

分野	意見の要旨
<p>情報提供 及び 相談支援</p>	<p>○がん教育について、若い年代への啓発活動は有効なので、学校の授業やPTAの取組に入れてほしい</p> <p>○禁煙教育と一緒にがん教育をやるべき</p> <p>○主治医など医療者側から積極的に医療情報等を提供してほしい</p> <p>○患者さんが亡くなったあとの家族のケアも検討してほしい</p> <p>○高齢の方への情報提供については、紙媒体よりもテレビ・ラジオの活用を検討してほしい</p> <p>○弱りきって患者団体の活動に参加できない方々の深刻な声をどう汲み取るかを考えてほしい</p> <p>○診療を受けるまでの待ち時間で、相談を受けられるようにしてほしい</p> <p>16 拠点病院相談支援室の調整役の機能向上（追加意見）</p> <p>○就労支援については、生活支援という観点から、治療休暇制度、治療休暇、時間休、時短などいろんな方法を含めて推進してほしい</p> <p>○就労・雇用継続相談窓口を設置すべき（追加意見）</p> <p>○障害者には雇用促進法があるが、がん患者にもそういうものを視野に入れてもらいたい</p> <p>○働けず困っている方々の生活を支えるために、障害年金などを迅速に支給できるよう、市町の窓口で対応してもらえようになればと思う</p> <p>○介護保険について、終末期になると急速に悪くなるケースが多いと聞くので、がんの患者さんに対しては、前倒しでフォローしてほしい</p> <p>○ソーシャルキャピタルという、みんなで支援をしようという考え方で、そこに相談支援センターも入れれば、地域や就労支援でつながりができるのではないか</p> <p>○県がんネットのリニューアル（実績羅列型→県民行動誘導型）、アクセス数の数値目標設定（追加意見）</p> <p>○各市町村や関係団体の情報網相談窓口機能向上、連携（追加意見）</p> <p>○ピアサポート人材育成の具体的提示をしてほしい（追加意見）</p> <p>○多様化する患者のニーズを把握する仕組みづくりを強化してはどうか（追加意見）</p>
<p>がん登録</p>	<p>○条例でがん患者の同意があれば必要な施策のために患者情報を使用できるしくみを検討してはどうか（追加意見）</p> <p>○住民基本台帳を活用し登録データフォローシステムを構築してはどうか（追加意見）</p> <p>○患者情報の適切な管理が必要である（セキュリティシステム構築）（追加意見）</p> <p>○癌治療は進歩しており、5年生存率だけでなく、10年・20年生存率の効果を期待する方が時代に合っているのではないか。（追加意見）</p>
<p>（その他）</p>	<p>○「緩和ケアと情報」、「企業における検診と就労継続」など、それぞれの場面を具体的に想定しパッケージを作って県民に対して投げかけていくべき</p> <p>○早期発見がコストを下げることや生活支援にもつながる考え方を広めていくべき</p> <p>○県がん対策条例を検討すべき（追加意見）</p> <p>○県・市町村・医療機関・事業主・メディア・患者・県民との連携強化（追加意見）</p> <p>○がんの予防、診断、治療に関する方法の開発や先進医療導入に向けた研究などの情報収集及び研究促進や県民への情報公開をする。（追加意見）</p> <p>○がん募金制度の設置を検討してはどうか：県民と事業主（例：バナナ募金売れた商品の2円を募金）（追加意見）</p> <p>○個人個人にしっかり関わりながら対応をしていくことが、より確実な取り組みであり、がん対策のしくみづくりの中に個人尊重の考え方をより強く導入する必要がある（追加意見）</p>

※（追加意見）は協議会後に委員から提出されたもの